

生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター於呂担当圏域レベル） 開催報告書	
1 開催日時	令和 7 年 2 月 19 日（水） 10 時 00 分 ～ 11 時 30 分
2 開催場所	浜北地域活動・研修センター 講堂
3 参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員（自治会、民生委員児童委員協議会、地区社協、シニアクラブ、CSW、地域包括支援センター）：10名</li> <li>・行政（高齢者福祉課、中瀬協働センター）：5名</li> <li>・市社協（浜北地区センター、地域支援課）：3名</li> </ul>
4 協議の内容	<p>1. 開会</p> <p>2. 会長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度最後の協議体となる。3年前から9回にわたり議論を重ねてきた。当初は時期尚早という意見も多く、事故の責任等否定的な意見も多く、ハードルも高かった。協議をしていく中で必要性についての理解が進み、買い物や通院等の必要性の高さが理解できた。</li> <li>・中瀬地区と赤佐地区ともに、目標としては一緒だが、赤佐地区では実践に向けて具体的なチームが結成されていくと聞いている。中瀬地区は慎重論も強く、引き続き協議を重ねていく予定である。</li> <li>・移動支援の実施に向けては行政の支援が不可欠と考えられるが、予算の関係もあり、支援を受けるのは厳しい状況である。ただ、ボランティア活動も限界がある。今後も問題点や解決策を協議していきながら、どのような形で進んでいくのか一定の方向性を決めていきたい。</li> </ul> <p>3. 議事</p> <p>(1)移動支援実施に係る他地区の取り組みについて (事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで行政への意見書を作成していくためにたたき台を提出。意見をいただく中で、これまで5か所の事例を見てきたが、もう少し実績、取り組みの詳細を知りたい、浜松市内の身近な事例を知りたい、とご意見をいただいたため、積志地区と北浜中地区の2つの事例も含めた比較表を作成した。</li> <li>・いずれも家事支援のメニューとして移動支援に取り組んでいる。</li> </ul> <p>※詳細は別紙移動支援サービス比較表参照</p>

### 【意見・質問】

○北浜中地区の対象者の所で、障がいを持った方も対象になっているが、要支援・要介護の人は除くのか。

⇒要綱に詳細は書いていないが、自分で乗り降りができる人が利用条件になっているため、要支援・要介護の方で乗り降りが難しい方は対象外と捉えることができると思う。

○活動内容の中の金融関係の同行については、金融機関への同行のみでお金をおろす等はしないという認識でいいか。

⇒認識の通り。

(2)移動支援に係るこれまでの取り組みと今後について

(事務局)

・これまでの取り組みについて、本日の会議は移動支援のまとめになる。今までどのように協議を重ねてきたのかを振り返りたい。

※詳細は別紙令和4年度・5年度・6年度の於呂協議体参照。

・これまで、於呂協議体ではあらゆる角度から移動支援について検討し、市に実施案を提案していくことを目標に進んできた経緯がある。

・協議体委員の話の中から中瀬地区社協、赤佐地区社協それぞれについて議論を始めている。赤佐地区社協は協議体の議論に沿う形で移動支援について議論を重ね、来年度ワーキンググループを立ち上げると聞いている。

・中瀬地区社協も関心度が高まってきている。これは協議体の議論が実を結んできた結果とも言えると考えている。

### 【質問・意見】

○赤佐地区社協会長は本日欠席だが、中瀬地区と赤佐地区では多少進捗状況の開きはあるが、赤佐地区は具体的に進んできている。中瀬地区は慎重ではあるが、必要性はあるため議論を続けている状況。今後はそれぞれで取り組みも変わってくるため、諸問題をクリアしながら、それぞれ進めていきたい。

⇒赤佐地区自治会としても、役員会の中で移動支援をどうするのか話をしたことはあり、話をする場所ができたことは確かだが、そこまで具体的な所は聞いておらず、実態は中瀬地区と同じではないかと考えている。

⇒どこでそういう話になったのか分からない。みんなで話した中でワーキングを作ったのかを聞いたわけではない。話を聞く限り考えがまとまってきたことは確かで、明るい方向性になってきていると思う。今の問題に対しても乗り越えていけるかなあという兆しもある。事故の所が一番怖い。どのくらいの確率で起こりうるか、マイナス面だけを見てしまうとせっかく住民で考えているものを住民がつぶしてしまう可能性もある。本来は行政の役割だと今でも思っている。

⇒リスク面のクリアが難しく、慎重にならざるを得ないところもある。どういう話の中でそうなったのか知りたい。問題を抱えながらも進んでいけるとよいが。

⇒見切り発車をして途中で立ち消えてしまっただけでは意味がない。やるからにはちゃんとした形で中途半端なものにならないようにしたい。現状、行政もバックアップは厳しい。責任もボランティア自身というのが実情である。

○活動実績の中の実人数の人数が分からない。件数はある程度分かるが、実人数が固定化している中でも進めていってもいいものなのか、実人員も増やして安定して取り組めるようにしていく方法もあるのではないかと思う。過去には家庭奉仕員を行政の取り組みとしてやってきた。市の職員も経験がないわけではない。移動支援は問題を抱えてはいるが、必要な制度だという思いはある。そういったことを考えていくためにも実人数はわかるとよいと思う。

⇒既に行われている家事支援事業でも利用者が固定化する傾向はあると考えている。

○シニアクラブでは、平均年齢も84歳と高齢化しており、活動自体の支障の方が多い。例えば催し物を浜北のグリーンアリーナで行うとしても、その会場に行くまでが大変。運転して事故にあってはいけないと家族から止められるケースもある。移動支援そのものには賛成するが、自分がやろうと思う人は少ないのではないか。プロに任せた方がいいのではないかとも思う。運転者の負荷が大きいため、担い手も少ないのではないか。シニアクラブの活動範囲も狭くなってきている。公民館で出来る範囲での活動にする等限定的になっている。

○事故の問題を考えると解決策はないと思う。誘い合っただけでどこかに行くのは何も思わない。時間も短く、事故のリスクも少ないと思うが、事故が起こらない保障はない。そこをどうやって乗り越えるか。団体に活動した場合でも事故は起こりうる。確かに事故が起きると取り返しがつかないことにもつながるが、それでも乗り越えられる案を1つ2つ出していく事も必要ではないか。事故を考えると解決はなくなってしまふ。

⇒みんなで誘い合っただけで出かけるのは双方の了解のもとで行なっている。ただ家事支援はお金が発生する。その体制をどのように整えていくかが必要なのかもしれない。

(事務局)

・上記の事故のリスクがある中でどのように活動進めていったのか、リスクを乗り越えたのか北浜中地区に確認したことがあった。

・北浜中地区が移動支援で取り組む際、市社協の研修に参加した人を中心に検討メンバーを結成。ルール等も慎重に議論を重ねながら1年間かけて立ち上げに至った。

・完ぺきではないが、やってみようという法律、規約づくり、コロナ対策の3点に特に重点を置いて議論を重ねた。

・地区社協の負担もありながら、移動支援を立ち上げた時の原動力は「顔を知っている人が困っているのを見かけたら助けてい。」という思いが強かった。虚弱な高齢者がバスや電車を乗り継いでいくのは大変。移動支援を利用することでだいぶ楽になったという話も実際にあった。目の前の人を助けていという強い思いがあったのではないかと。

○赤佐地区の会長が本日欠席のため話を聞いてきた。(事務局)

・地区社協の中でも議論が活発化している。4月よりワーキンググループを立ち上げていく予定である。そのために地区社協だけでなく、自治会や民生委員の方々の協力が必要不可欠と考えている。

・R6.7に赤佐地区家事支援事業の活動報告会を開催。その際、新たな生活支援体制として移動支援の説明をし、その後グループワークを実施した。その後のアンケート集計では移動支援について「必要と考える：32%」「いずれ必要：55%」であり、移動支援に協力できますかという問いに対しては「運転・車両ともに協力できる：31%」「条件により協力できる：40%」「運転だけなら可能：20%」という結果であった。

○今まで行政に対する提案書を作るのをゴールとしていたがそれぞれの地区で話し合える方向に向いてきた。そこをゴールとするのであれば協議体で移動支援について議論を行うのは一旦終了とし、今後はそれぞれの地区社協において協議を継続していく形でもよいのではないかと考える。

⇒今後は赤佐・中瀬一緒にやっていく段階ではなく、これからはそれぞれの地区社協のやり方で進めていく形でもよいと考える。

○3年にわたり議論を重ねてきたのは初めてのことである。移動支援に関する事例を何件か報告させていただいたが、実際に地域の方々が移動支援に関して関心を持っている住民がいること、その必要性があると感じている人が地域の中にあることが分かったのは大きな収穫と考えている。他の地域でやっていることを受け、ここの地域でもできるといいなあと、移動支援についてこれだけ真摯に話し合っていたことに感謝したい。今後は赤佐地区ではさらにワーキンググループを立ち上げていくと聞いている。今後はさらに自治会や民生委員の方々と協力しながら協議をしていくと思うが、実現できることを切に願っているし、包括として協力できる場所は今後も協力していきたい。

○移動支援について、地区社協に持ち込んで話を進めていくだけではせっかくの話もつぶれてしまうのではないかと。それであれば協議体のような場所で議論をしていく方がいい

いのではないか。

⇒実現したいという強い気持ちは分かるが、そこをどう応援してくれるのか。市の方でのバックアップは？その方向性を示してもらわないと進まないのではないか。

⇒中瀬地区の地区社協は民生委員も自治会もメンバーに入っているため、組織化はできている。ただ、議論の中ではいつも事故の問題で行き詰ってしまう。責任をもってくれるところがないと進めるのは難しいのではないか。

⇒(市高齢者福祉課)移動支援に関する事故に対しての問題、今の時点でこれに対して直接何か、というのはないため明確な返答はできない。

○移動支援に対する意識は高まってきた。赤佐と中瀬それぞれで進めていくにあたり、正しく情報が伝わっていないところがある。地区社協だけではなく、自治会や民生委員、シニアクラブ等とも密に情報共有をしながら共通認識の中で進めてもらえるといい。

○(市高齢者福祉課)交通に関する全体の考え方としては、交通は高齢者だけではなく、色々な方が使うため交通政策課の方で進めている。新たな動きとしては市長の投資予算として遠州鉄道のバス路線に対してR7以降、補助金制度を検討していくことが示された。

⇒コミュニティバスの利用・活用がもう少しできるといい。毎年のようにコミュニティバス議論が挙がる。

○赤佐地区社協でワーキングメンバーを作ると言っているが、実際に声を上げているのはどこか？

⇒地区社協を中心にワーキングチームを立ち上げると聞いている。今回、赤佐の自治会や民生委員、シニアクラブ等と話が共有できていないことが確認できた。各団体が協力して協議できるといいと考えるため、赤佐地区社協にもその旨を伝えながら協力体制を結んでいきたいと考える。(事務局)

#### 【今後の方向性について】

3年間にわたり移動支援について協議を重ねてきたが、協議体の中では一旦区切りとしていく。今後はそれぞれの地区で検討を続けていく。今後も社協や行政もバックアップをしていく。

#### 4. その他

- ・委員報酬について、出席回数に応じて振り込みをしていく。
- ・次回R7年度の会議については、改めて日程調整をしていく。

5 今後の見通し・  
必要な対応

- ・移動支援については、協議体での検討は一旦終了とするが、引き続きそれぞれの地区で進めていくところについては、市社協や行政等もサポートを続ける。
- ・次回からは、改めて今の地域の困りごとや課題について話し合い、今後の協議体での取り組みについて検討する。